

MIMS/CMMA News Letter



明治大学
先端数理科学インスティテュート (MIMS)
Meiji University, Meiji Institute
for Advanced Study of Mathematical Sciences (MIMS)



文部科学省 共同利用・共同研究拠点
「現象数理科学研究拠点」(CMMA)
MEXT Joint Usage / Research Center
"Center for Mathematical Modeling and Applications" (CMMA)

VOLUME

追悼号

June
2021

発行者

明治大学 先端数理科学インスティテュート

〒164-8525 東京都中野区中野4-21-1 明治大学中野キャンパス 高層棟8階

Tel: 03-5343-8067 / FAX: 03-5343-8068

Web site: <http://www.mims.meiji.ac.jp/index.html>

三村昌泰

1941.10.11 - 2021.4.8



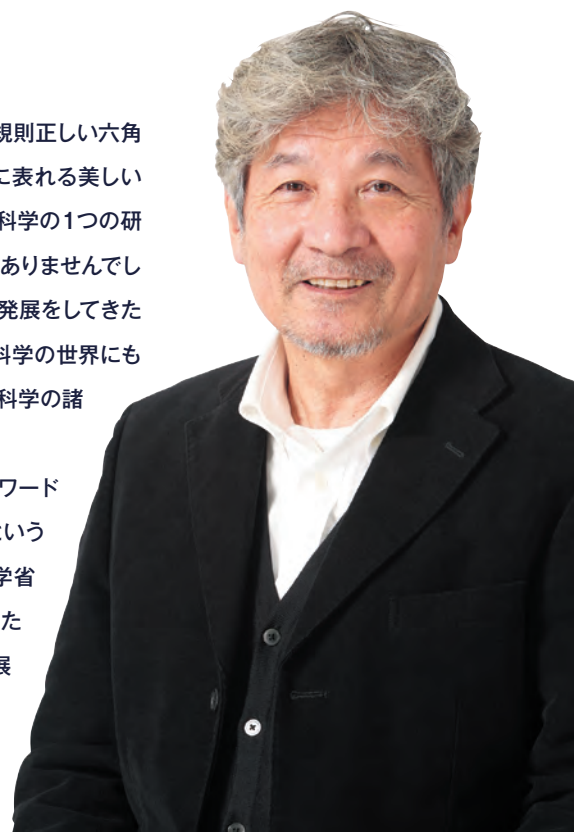
Masayasu
Mimura

「現象数理学の発展をめざして」

自然界には様々な不思議で美しい形・模様が観察されます。例えば、ミツバチの巣の美しい規則正しい六角形構造あるいは雪の結晶形、金平糖等の不思議な形状、一方、トラ、キリン等の動物の表皮に表れる美しい模様、また海底にいるヒトデやウニの奇妙な形など自然界に現れる形、模様の研究は、自然科学の1つの研究テーマとして非常に古くから関心をもたれていますが、これまで数学側からの接近はほとんどありませんでした。しかしながら、望遠鏡や顕微鏡が科学の世界において強力な技術になったように、急激な発展をしてきたコンピュータは理論科学において大きなブレイクスルーの一翼を担うことになり、数学・数理科学の世界にもインパクトを与えました。このことから、数学・数理科学は自然社会にとどまらず、人文、社会科学の諸分野まで横断する形で展開することになったのです。

このような状況の中で、私は、これまで現象と数理の世界の橋渡しであるモデル構築をキーワードとして、モデリング、解析それを相補するシミュレーション等を用いて現象の解明に接近するという「現象数理学」という融合分野を提唱しました。現象数理学は2008年から開始した文部科学省事業であるグローバルCOEプログラム「現象数理学の形成と発展」において推進してきましたが、2014年MIMSは現象数理学共同利用・共同研究拠点として認定されたことから新しい展開を進めています。

(三村先生個人HPより 2016年)



業績

Achievements

▶ 学会等活動

CNRS フランス国立科学研究センター フランス・日本・台湾・韓国4か国の共同研究事業 GDRI ReaDiNet プロジェクトリーダー (2015-)
日本数理生物学会第6代会長 (2013.1-2014.12)
Advisory committee of Center of Mathematical Modeling and Scientific Computing, National Chiao Tung University, Taiwan (2009-)
日本応用数理学会フェロー (2008-)
独立行政法人科学技術振興機構さきがけ「生命現象の革新モデルと展開」領域アドバイザー (2007-2012)
CNRS フランス国立科学研究センター フランスとの研究協力事業 (LIA-197) ReaDiLab 日本側代表 (2007-)
広島大学付属中・高等学校 SSH 運営委員会委員 (2003-)
日本応用数理学会評議員 (2003.4-)
日本応用数理学会第13代会長 (2002.4-2003.3)

▶ 研究事業

文部科学省平成28年度私立大学研究ブランディング事業選定「Math Everywhere : 数理科学する明治大学ーモデリングによる現象の解明ー」(2017-2021)
文部科学省共同利用・共同研究拠点「現象数理学研究拠点」リーダー (2014-2016)
文部科学省グローバルCOE「現象数理学の形成と発展」リーダー (2008-2012)
明治大学先端数理科学インスティテュート (MIMS) 創設・初代所長 (2007-)
広島大学大学院理学研究科数理分子生命理学専攻の立ち上げ (1999)

▶ 科研費

科学研究費補助金挑戦的萌芽研究「腫瘍細胞の増殖に現れる接触抑制モデルの数理解析」 (2015-2017)
科学研究費補助金挑戦的萌芽研究「ランダム運動による集合形成に対する特異極限解析」 (2012-2013)
科学研究費補助金基盤研究 (S)「非線形非平衡反応拡散系理論の確立」 代表 (2006-2010)
科学研究費補助金基盤研究 (A)「非線形非平衡現象の数学からの接近-transient な時空パターンの解明-」 代表 (2003-2005)
科学研究費補助金基盤研究 (A)「反応拡散系における新しい展開 - 特異極限法の総合的研究 -」 代表 (2000-2002)
科学研究費補助金特定領域研究「非線形非平衡現象を支配する特異性の解明」 代表 (2000-2002)
他、多数。
論文、講演多数。

▶ 受賞

中華民国数学会外国人貢献賞受賞 (2008年12月19日)

▶ 著書

2015年 現象数理学の冒険 明治大学リバティブックス
2014年 マレー数理生物学入門 丸善出版
2013年 現象数理学入門 東京大学出版会
他、多数

▶ 学術誌編集

2010- Editor-in-chief, Japan Journal of Industrial and Applied Mathematics, Springer Japan
1998- Editorial Board, Mathematical Models and Methods in Applied Sciences, World Scientific
他、多数



2003年3月、オランダ・ライデン大学にて(俣野撮影)



三村昌泰先生を偲ぶ

俣野 博

明治大学先端数理科学インスティテュート所長

MIMS 初代所長の三村昌泰先生は本年4月8日に亡くなられました。その直後から三村先生の逝去を悼む声が国内外から次々と届き、三村先生の人望の厚さを改めて実感しました。

三村先生は、数理モデルを用いて自然や社会の現象を数理的視点から解き明かす研究に生涯を捧げられました。先生が扱ったテーマは、生態学、化学反応、錯視、砂漠化、人類学など、実に多様で、その学問的関心の幅広さには驚くばかりです。三村先生は、本当に研究がお好きな方でした。明治大学を定年でお辞めになった後も、ときおりMIMSを訪ねてこられて、ラウンジでひたむきに議論されていた姿が思い出されます。

三村先生に初めてお会いしたのは1975年で、私が京都大学理学研究科の修士課程に入学した年でした。当時三村先生は甲南大学の助教授をされていて、私の指導教官の山口昌哉先生が主催するセミナーに頻繁に顔を出されていたので、よく話をする機会がありました。

翌年初めから約1年間、三村先生はオックス

フォード大学のJim Murray教授の研究室に滞在されました。夏に一時帰国された際にお会いしたところ、三村先生は、日本を発つ前とは別人のように、自信と気迫に満ちていました。オックスフォード大学での研究生活が充実していることがうかがえました。そのとき三村先生から教えていただいた幾つかの未解決問題の一つに私は興味を引かれ、数ヶ月間考え続けて、ようやく年明けに解決できました。これが私の修士論文となり、この論文を書いたことが、その後の私の研究人生に大きな影響を与えました。このことを、今も深く感謝しています。

その後、私は東大の助手に採用されて京都を離れ、三村先生も広島大学に異動されて、顔を合わせる機会が少なくなりました。しかし1982年から私は広島大学で講師・助教授を務めることになり、1988年まで一緒に仕事をさせていただきました。私にとって充実した6年間でした。

2003年3月、三村先生とパリ南大学のDanielle Hilhorstさんと私が世話人になって、オランダのライデン大学で「生命科学における

複雑パターンの数理的解明」という国際研究集会を開催しました。世界各地から多くの研究者が参加して会議は大盛況でした。この研究集会の成功を契機に、私たちは日仏間で本格的な国際連携事業を進めることにしました。それがフランスCNRSのプログラムとして推進したReaDiLab事業で、日本側代表を三村先生と私が務めました。現在はReaDiLabの後継事業として、日・仏・韓国・台湾の研究者をメンバーとするReaDiNet事業を続けており、MIMSが日本の幹事拠点を務めています。

三村先生は、現象数学の発展のために我々が何をすべきかについて、いつも熱く語っていらっしゃいました。その強い信念と行動力が、MIMSの事業推進の原動力となりました。その一方で、三村先生は気さくな人柄で、周囲を安心させる不思議な魅力の持ち主でした。もう三村先生にお会いすることはできませんが、先生が残してくださった大きな遺産を、私たちが力を合わせて継承し、発展させていきたいと考えております。



2010年3月、駿河台にて



懐かしい人

土屋 恵一郎
明治大学前学長

三村さんが亡くなった。大学院長の小川知之さんから電話で聞いた。信じられなかった。いつも健康で快活だった三村昌泰さんが、亡くなるなんて。三村さんと会わなくなってまだ一、二年かもしれない。中野キャンパスで行われた総合数理学部の三村賞の授賞式に出かけた時が最後だったかもしれない。その時は、話す時間も無く失礼した。

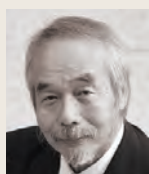
三村さんとの関係は、二〇一三年に開校した総合数理学部を準備する過程で、作られていった。砂田利一さんと三村さんが総合数理学部をつくる時の私のパートナーであった。推進役の

学長は納谷広美学長、私は、教務理事として、人事と予算の責任者であった。三村、砂田の二人がいなければ、この斬新な学部は作られることはなかっただろう。つくづくこの新学部を構想した納谷学長の力量によって今の明治大学はあると思う。

三村さんは、いつ会っても透明で曇りが無い。数学はわからないが、その快活な透明な精神が、複雑な社会と自然の現象を数理のなかに美しく描くことにつながっていたにちがいない。一つ面白いことがあった。文科省の私立大学ブランディング事業を申請する時に、その事業タ

イトルに、私はちょっとアピール力がないと思った。三村さんの案は「モデリングによる現象の解明」だったと思う。それは今でもサブタイトルに使われている。私は、「数学する明治大学」を提案した。大学ブランディングとしてはこの方がいいと思った。三村さんは、ちょっと困った顔をして「数理科学する明治大学」に変更してくれた。ブランディング事業は採択され、事業終了において高い評価を受けたと聞いた。

三村さん。一緒にいると空気が温かかった。懐かしい人だった。それがいまはせつない。本当にせつない。



構想力と実行力

砂田 利一
明治大学初代総合数理学部長

三村さんは、故増田久弥先生の熱心な招聘により、他大学から明治大学理工学部に移ってこられた（松山英樹先生や私もその例である）。当時増田先生は、理工学部の中でもとすれば脆弱な位置にあった数学科の存在を強化しようと、様々な努力を重ねられていて、三村さんと私はその意を汲んで数学科教員を束ね、文科省プロジェクトに積極的に応募した。中でもグローバルCOE獲得に成功したのは、三村さんの構想力と実行力に負うところが大きい。さらに、

MIMS及び先端数理科学研究科と総合数理学部の立ち上げも、三村さんの存在なしには成功しなかったであろう。

正直、数学者の中で構想力と実行力を兼ね備えた人物は稀有な存在と言ってよい。しかも研究者として一流という条件を付ければ、三村さんの他にはそのような数学者は寡聞にして存じ上げない。

三村さんと私の関係について申し上げると、研究分野に関しては殆ど共通部分がない。大ま

かに言えば、三村さんは「応用数学」、私は「純粋数学」の研究者だからである。そのような二人が協力関係にあったのは、研究分野が全く異なるにも拘らず、互いに尊重しあっていたことであろう。思い返せば、私は三村さんの研究に対する「思い」を理解し、三村さんも私の純粋数学への「思い」を尊重してくださっていた。

二人の退職後も、三村さんの熱い思いを引き継ぎ、強力なメンバーがMIMSと現象数理学を支えていることを申し添えておく。



2014年3月, 中野 MIMSにて



三村先生の想いで～三村先生の功績は永遠です

萩原 一郎

明治大学先端数理科学インスティテュート第二代所長

三村先生は京都大学数理工学科の5年先輩で山口昌哉先生のところで卒論研究をされた。私も山口先生のところだと考えていたが研究室配属の時は、山口先生は理学部数学科に移られていた。従って、三村先生とはすれ違いということになる。ただ、同じ山口門下の西田、野木の両先生が数理工学科に助手でおられたこともあり数理工学の方にも良く来られていたのだと思う。直接話をした記憶はないが「三村さん」の話を良く耳にし、親しみを持っていた。三村先生が

東大数理工学科におられた時、三村先生から企業所属の客員教授を探されているという電話を頂いた。私は丁度、日産自動車(株)から東京工業大学に移る直前であり応じることができなかった。更に東工大に在職のおり、明治大学の理工に移られた三村先生から講演の依頼を頂いた。MIMSにお世話になる前は、直接お話をさせて頂いたのはこの2回だったかと思うが、2012年から身近に接することができたのは極めて幸運だった。応用数理国際会議、国際数学会議

の両方で基調講演をされたのは国内ではお二人だけ。現象数理学とMIMSの創設者として著名であり、MIMSはMimura Instituteの略と信じている方も多い。三村先生は沢山の研究者を国内外に残されています。三村賞も創設されました。三村先生の功績は永遠です。三村先生の現象数理学の思いを引き継いで行きましょう。三村先生、安らかに見守って下さい。



自分に厳しく、人には優しく

杉原 厚吉

明治大学先端数理科学インスティテュート第三代所長

三村先生は、数理モデリングの優れた研究者として研究活動に邁進されただけでなく、ご自身で開拓された新しい研究分野を「現象数理学」という名称で昇華され、さらにそれを推進するMIMSという永続的組織を構築し軌道に載せるところまで先頭に立って走り続けるというスケールの大きい生き方をされました。MIMSを創設されて間もないころから今までの12年間で、そばで仕えさせていただいた私は、文部科学省グローバルCOEプログラムの採択と推

進、さらにその上を目指しての同省共同利用・共同研究拠点の認定と第1期S評価・継続認定など、この分野で私立大学としては全国初の快挙を次々と目の当たりにすることができました。着実に成果を重ねながらも、それに甘んずることなくどこまでも前進し続けるという自分に厳しい指導者の姿でした。

また三村先生は、心が広く、後進の面倒もとてもよく見てくださいました。私自身は、MIMSでは大好きな立体錯視の研究を自由にやらせ

ていただいています、これは前の職場では趣味として細々とやっていたテーマでした。これを中心に研究してよいと言っていたのも三村先生です。MIMSへ赴任した年に創作した錯覚作品が国際コンテストで初優勝できたのも、優勝を狙ってほしいと三村先生に言われてその気になったおかげだと感謝しております。

ずーっと走り続けてこられた三村先生、どうぞゆっくりお休みになってください。



2010年2月、生田 GCOE研究拠点にて



三村先生を偲んで

西森 拓

明治大学先端数理科学インスティテュート副所長／明治大学グローバルCOEプログラム事業推進担当者（連携協定 広島大学）

三村先生の突然の訃報に接しすでに2ヶ月が経とうとしている。私が三村先生の講演を初めて聴講したのは20年ほど前に過ぎない（それは私が若いことを意味していない）。実際、先生の名前や研究に接する機会は、それよりさらに10年以上も前、私がある大学で助手の職を得た頃に遡る。ただし、非線形物理学を専門とする私にとって三村先生は近隣分野の著名な研究者というイメージに留まっていた。16年前に広島大数理分子生命理学専攻に赴任し、三村先生に接する機会は劇的に増えた。先生はすでに明治大に移られた後であったが、広島大のスタッフ（数学者、物理学者、化学者、生物学者、事

務スタッフ）との繋がりを保たれ再々大学を訪ねてこられた。この稀有な機会を通じてすぐに次のことを悟った。「研究者三村昌泰氏の本質は、並み外れた人間力にある」。その後、三村先生は、明治大主体のGCOEプログラムに広島大を引きこみ、他大学も含め専門分野を超えた各人・各所を巻き込み、明治大学に現象数理学という新しい分野の教育・研究拠点の創設に至ったが、これらは、ご本人の人間的魅力無しには起こり得なかったことである。'三村ワールド'には専門の壁のみならず国境もなかった。MIMSには、三村先生の訃報に接した世界の研究者から哀悼の言葉が数多く届いた。最後まで、会う

たびに嬉しそうに新しい研究ネタを語ってくれた三村さん（ここではあえて「さん」付けで呼ばせて頂く）が去った後も、数理科学の地平を広げる意志を後世に伝えていくことはMIMSの役割であり、私自身も微力ながら貢献できればと願っている。そういえばここに至って三村さんの大事な言葉を思い出した。

「西森さん、物理学専門なんて言わないでよ。僕らは出身に関係なく一緒に新しい分野を作って行くんやないの。」

すみません三村さん。上の「非線形物理学を専門とする」という文言取り消します。

三村先生のご冥福をお祈りします。



三村先生を偲んで

上山 大信

武蔵野大学教授／明治大学先端数理科学インスティテュート設立時所員

数年前になりますが、武蔵野大学工学部での大学院設置に関して、三村先生には多くのご尽力をいただきました。申請書類について検討をする際に大学経営側の方が、この申請書の内容は現象数理学ではないかとおっしゃった。ここは数理工学なので違うのではないかと。帰りの電車で「現象数理学」というワードが、専門外の方の口から自然に出てきたことに驚くとともに、誰も知らない「現象数理学」をどうやって知ってもらおうかと関係者であれこれ悩んだ頃を懐

かしく語り合いました。明治大学から「現象数理学の形成と発展」というタイトルでグローバルCOEに申請されましたが、その準備の段階では毎日夜遅くまで申請書の見直しをされていました。採択後も、次に繋げる事にこだわっておられたように思います。それらの成果は皆様のご存じのことと思います。先生は理解するとはどういうことかを真剣に考えておられたように思います。論文名に model aided understanding が含まれる論文も近年数編書かれています。

現象数理学は、かなり広い分野を含むと思いますが、三村昌泰先生ご自身の立場としては、model aided understanding が現象数理学であったのではないかと思います。このことは聞いてみたいと思っていたことでしたが、残念ながらもう聞くとはかないません。「現象数理学の発展」は今後の我々に託されたミッションであらうと思います。



2011年9月, Hilhorstさんご家族、俣野先生と(Hilhorstさんご両親宅)



思い出

ダニエル・ヒルホースト (Danielle Hilhorst)

CNRS/ University Paris-Saclay Emeritus Research Director

西洋では、三村昌泰教授を、私たちはいつもマーヤン(Mayan)と呼んでいました。私がマーヤンに初めて出会ったのは、ずいぶん昔のことです。1981年12月2日、オランダのライデン大学で私の博士論文の公開口述審査が開かれた日に、マーヤンは私の指導教員のBert Peletier教授を訪ねてライデンに来ていました。私はBertから、マーヤンを私の論文審査会だけでなく、審査会後の夕食会にも招いてほしいと言われました。これが、マーヤンと私の交友の始まりです。

その後長年にわたりマーヤンと私は、フランスや日本だけでなく世界各地で何度も会う機会がありました。マーヤンは、いつも信じられないほどの存在感があり、陽気で、はつらつとして、創

造性に溢れていました。私たちは数学についてよく議論を交わしましたが、主に、生物現象のモデリングに関連してマーヤンが提起したさまざまな新しい問題について論じ合いました。私が長年、博士課程の学生や若いポスドク研究者と一緒に、また第一線の数学者と共同で取り組んできた研究の大部分は、マーヤンが提起したそれらの問題をテーマとしています。

マーヤンはフランスに滞在するのが好きで、数学の研究だけでなく日頃の生活も楽しんでいました。その一方で、私や同僚を日本に招いた際には、いつも破格のおもてなしで迎えてくれました。私たちは今でも、日本を訪問したときの素晴らしい思い出を大切にしています。

2000年代に入って、私たちは俣野教授や三

村教授と共同で、多くの日仏交流プロジェクトを立ち上げました。CNRSと日本の大学の助成を受けたこれらのプロジェクトにより、日本やフランスで研究集会を開催したり、日仏の研究者による相互訪問を企画したりすることができました。その後、私たちのグループは、日本、フランス、韓国、台湾の研究者で構成するCNRSのReaDiNet国際研究ネットワークへと発展しました。

マーヤン、あなたのおかげで、フランスと日本の研究者の間に素晴らしい友情の絆を結ぶことができました。あなたが私たちにしてくれた多くのことに対して、そして長年かけてあなたと一緒に書いた論文のすべてについて、感謝の意を表します。

Souvenirs

Danielle Hilhorst

Directrice de recherche au CNRS en Mathématiques

En Occident nous avons toujours appelé « Mayan » le Professeur Masayasu Mimura. Ma première rencontre avec lui remonte à très longtemps. Le 2 décembre 1981, quand j'ai soutenu ma thèse de doctorat à l'Université de Leiden aux Pays-Bas, Mayan était à Leiden car il rendait visite à mon directeur de thèse, le Professeur Bert Peletier. Et Bert m'a demandé d'inviter Mayan non seulement à ma soutenance, mais aussi au dîner qui a suivi. Et c'est ainsi qu'ont commencé mes contacts avec lui.

Pendant de longues années, j'ai eu de nombreuses rencontres avec Mayan, non seulement en France et au Japon mais aussi un peu partout dans le monde. Mayan avait une présence

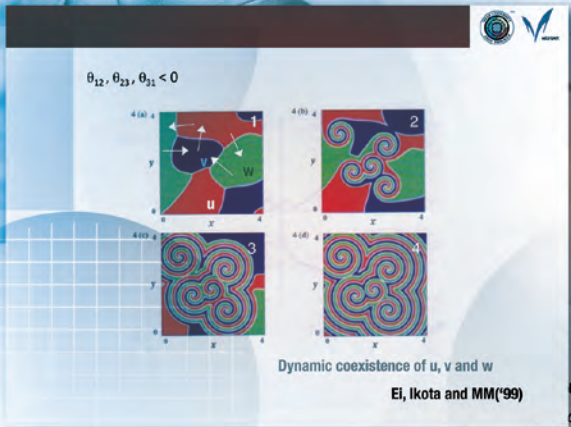
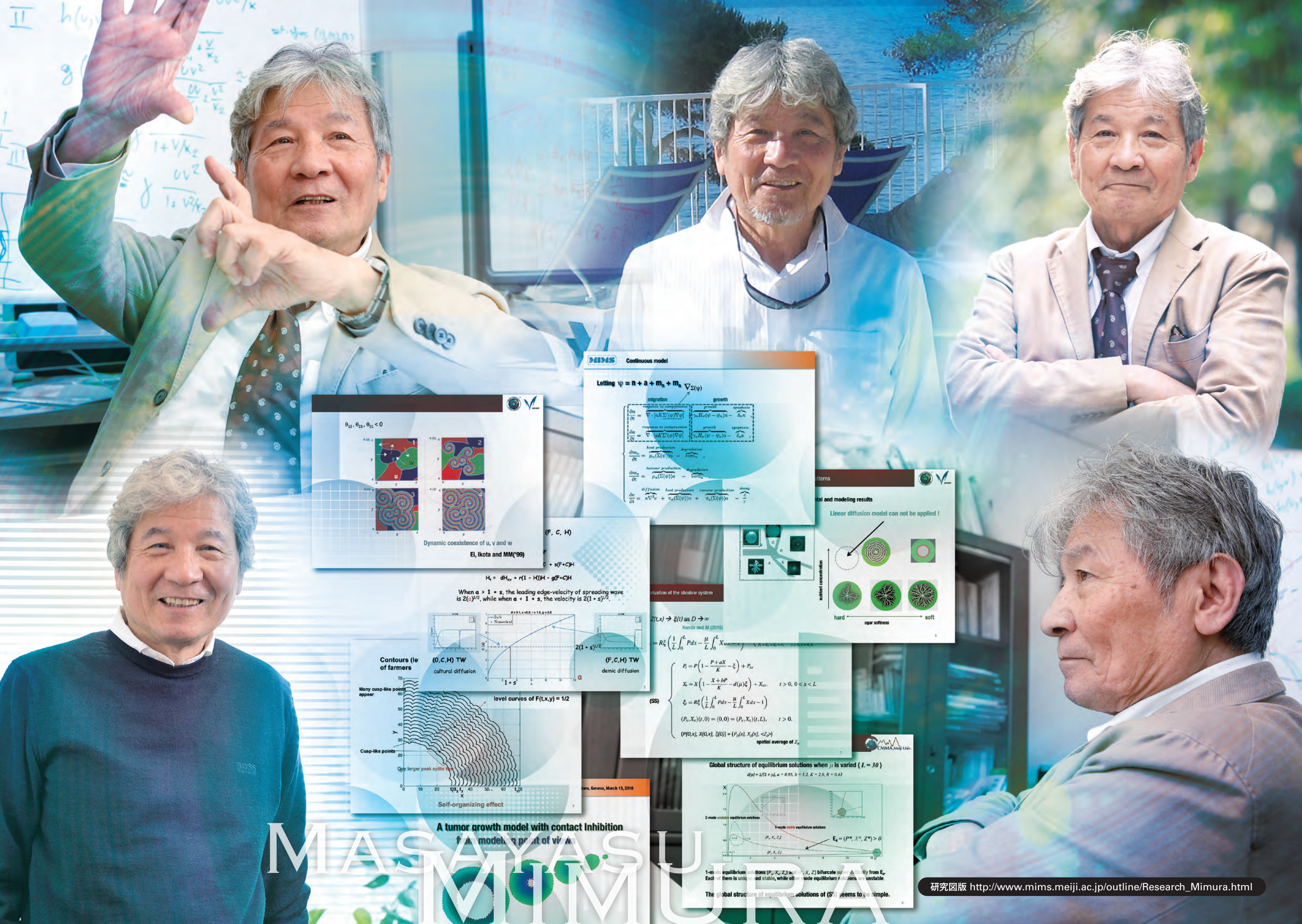
incroyable, et débordait de vie et de gaieté, tout autant que de créativité. Nous discussions de mathématiques, le plus souvent de nouveaux problèmes posés par Mayan modélisant des phénomènes intervenant en biologie. C'est en grande partie sur ces problèmes que j'ai longtemps travaillé, avec mes doctorants, de jeunes chercheurs post-doctorants ainsi que des collaborateurs très reconnus en mathématiques.

Mayan aimait séjourner en France, à la fois pour les mathématiques et pour la vie de tous les jours. Mayan témoignait aussi d'une hospitalité exceptionnelle pour ses collègues du monde entier qu'il a invités au Japon. Encore aujourd'hui nous gardons un souvenir émerveillé de ces visites au Japon.

Dans les années 2000, nous avons organisé un grand nombre d'échanges entre la France et le Japon avec les Professeurs Matano et Mimura; ces projets, qui étaient subventionnés

par le CNRS et les universités japonaises, nous ont permis d'organiser des workshops, au Japon et en France, ainsi que des voyages et séjours en France et au Japon. Par la suite, notre groupe s'est agrandi pour devenir le Réseau de Recherche International ReaDiNet du CNRS entre le Japon, la France, la Corée du Sud et Taiwan.

Mayan, grâce à toi, nous avons pu nouer des liens d'amitié extraordinaires entre des chercheurs français et japonais. Je voudrais te remercier pour tout ce que tu as fait pour nous, ainsi que pour les articles que nous avons écrits ensemble pendant de longues années.



Continuous model

Letting $\psi = n + a + m_a + m_s \nabla \Sigma(\psi)$

migration growth

$$\begin{cases} \frac{\partial n}{\partial t} = \nabla \cdot [n K \Sigma(\psi) \nabla \psi] + \gamma_a H_a(\psi - \psi_a) n - \delta_a n \\ \frac{\partial a}{\partial t} = \nabla \cdot [a K \Sigma(\psi) \nabla \psi] + \gamma_s H_s(\psi - \psi_s) a - \delta_a a \end{cases}$$

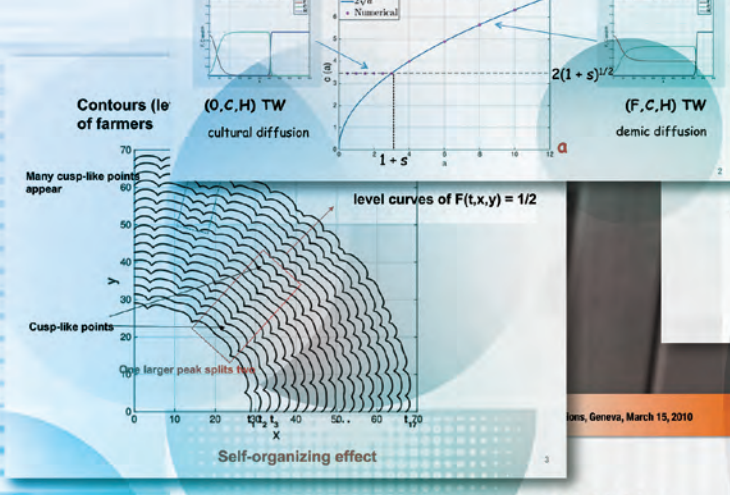
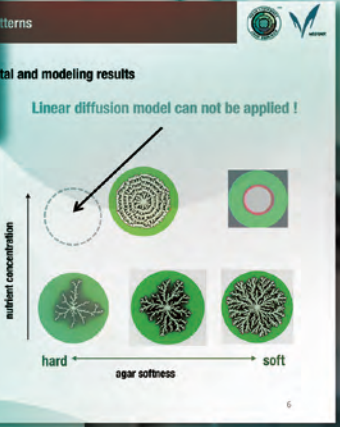
response to crowding response to crowding

$$\begin{cases} \frac{\partial m_a}{\partial t} = \mu_a (\Sigma(\psi)) n - \frac{1}{\Gamma} m_a \\ \frac{\partial m_s}{\partial t} = \mu_s (\Sigma(\psi)) a - \frac{1}{\Gamma} m_s \end{cases}$$

host production tumor production degradation

$$\frac{\partial c}{\partial t} = \kappa \nabla^2 c + \pi_a (\Sigma(\psi)) n + \pi_s (\Sigma(\psi)) a - \frac{c}{\tau}$$

diffusion host production tumor production decay



Global structure of equilibrium solutions when μ is varied ($L = 30$)

$d(\mu) = 1/(1 + \mu)$, $a = 0.95$, $b = 1.2$, $K = 2.5$, $R = 0.43$

2-mode unstable equilibrium solutions

1-mode stable equilibrium solutions

$E_0 = (P^*, X^*, Z^*) > 0$

1-mode equilibrium solutions (P_i, X_i, Z_i) and (P_i, X_i, Z_i) bifurcate successively from E_0 . Each of them is unique and stable, while other mode equilibrium solutions are unstable.

The global structure of equilibrium solutions of (SS) seems to be simple.

MASAYASU MIMURA

1941年 10月11日生 (香川県高松市)

1965年 京都大学工学部数理工学科卒業

1967年 京都大学大学院工学研究科修士課程数理工学専攻修了

1973年 工学博士 (京都大学)

1970年 甲南大学理学部講師

1974年 甲南大学理学部助教授

1976年 オックスフォード大学客員研究員 (1977年2月まで)

1979年 甲南大学理学部教授

1980年 広島大学理学部教授

1993年 東京大学大学院数理科学研究科教授

1998年 広島大学理学部教授

東京大学大学院数理科学研究科教授併任 (1999年3月まで)

1999年 広島大学大学院理学研究科教授 (数理分子生命理学専攻)

京都大学数理解析研究所教授併任 (2000年3月まで)

2000年 フランス科学高等研究院(IHES)客員研究員

2003年 ポアンカレ研究所客員研究員

2004年 明治大学理工学部教授

2006年 フランス社会科学高等研究院(EHESS)客員教授

2007年 明治大学先端数理科学インスティテュート初代所長

2011年 明治大学大学院先端数理科学研究科教授、初代研究科長

2017年 明治大学退職

2017年 武蔵野大学特任教授

2017年 明治大学学長特任補佐 (2018年3月まで)

2019年 広島大学客員教授

2021年 4月8日午前8時48分逝去 (満79歳) 従四位瑞宝中綬章受勲

明治大学名誉教授・広島大学名誉教授



2017年3月, MIMS 10周年記念式典で(駿河台)

編集後記

花まつりとして知られる灌仏会 (お釈迦様の生誕祭) が古来より全国各地で営まれる4月8日に三村昌泰先生は永眠されました。奇しくもお釈迦様の入滅と同じ享年80歳でした。先生を知る人の誰もがには訃報を信じられない、いつも命が輝いている人でした。先生が我が子のように育てたMIMSが今年で15周年を迎えます。くつろいだときに人懐っこい笑顔で「そうなんよ〜。」と話す「だ」抜き言葉を聞くと、先生との距離が一気に縮まりました。皆先生が大好きでした。MIMSはMIMURA'Sの略ですか?という一知半解には真面目に答える人でした。現象数理学三村賞にお名前が附されているのもスタッフの自然な発案によるものでご自身のご意向ではありません。2月半ば、そんな三村先生のiPhoneから所長にメールが届きました。「俣野さん メールありがとうございます。いつ落ちつくかわからないコロナの為にひたすら東広島にいます。貴兄の方はどうですか。 研究推進フェローの件お知らせありがとうございます。でも歳のことから考えてこの3月で終わりにしたいと思います。どうもこれまで有難うございました。これでMIMSから離れる訳ですが、なんらかの関係を維持したい為に、厚かましいお願いですがthe founder of のような名前をexplicitに残して頂くことはできないでしょうか。検討して頂ければありがたいです。お礼、そしてお願いまで。三村昌泰」 珍しいご依頼だなあと思いましたが、これはMIMSへの遺書だったのですね、先生。 合掌 (山口智彦、MIMSスタッフ一同)